

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 24032

建築物名称	日本ゼオン株式会社川崎地区合同棟等建設工事
建築主	日本ゼオン株式会社 川崎工場長 渡辺 誠
建築物の所在地	川崎市川崎区夜光1-2-1
設計者氏名、建築士事務所名	中村 武嗣 株式会社双星設計 一級建築士事務所
工事種別	増築
床面積の合計	24,647.35㎡
用途	事務所
構造	鉄骨造
階数	地上8階
工事完了予定年月	令和8年7月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	太陽光発電

1-1 建物概要

建物名称	日本ゼオン株式会社川崎地区合同棟等建設工事
建設地	川崎市川崎区夜光1-2-1
用途地域	工業専用地域
地域区分	6地域
建物用途	事務所
竣工年	2026年7月 予定
敷地面積	89,682 m ²
建築面積	4,428 m ²
延床面積	24,647 m ²

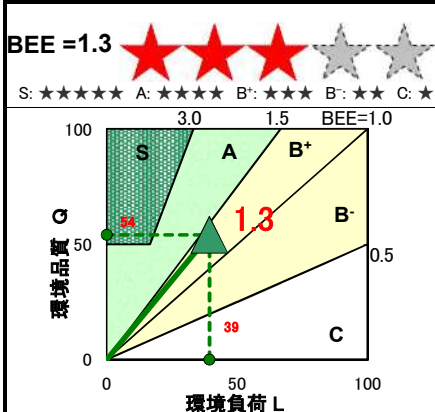
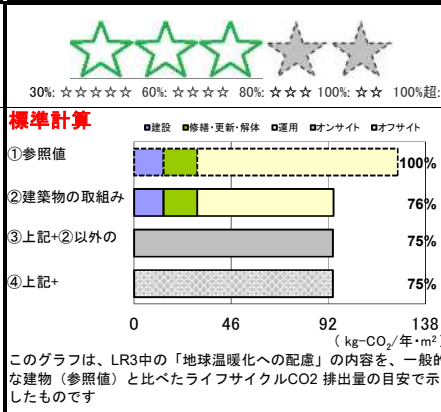
階数	地上8F
構造	S造
平均居住人員	432 人
年間使用時間	1,936 時間/年(想定値)
評価の段階	実施設計段階評価
評価の実施日	2024年8月27日
作成者	中村 武嗣
確認日	2024年8月27日
確認者	柴田千恵

1-2 外観

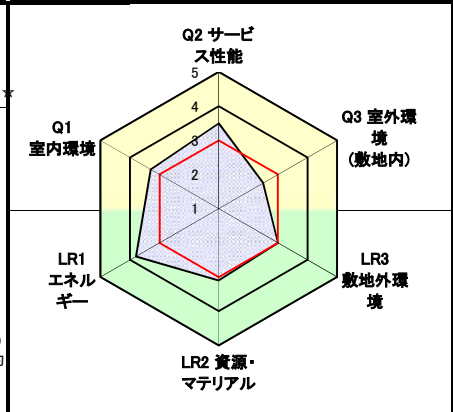
24032

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

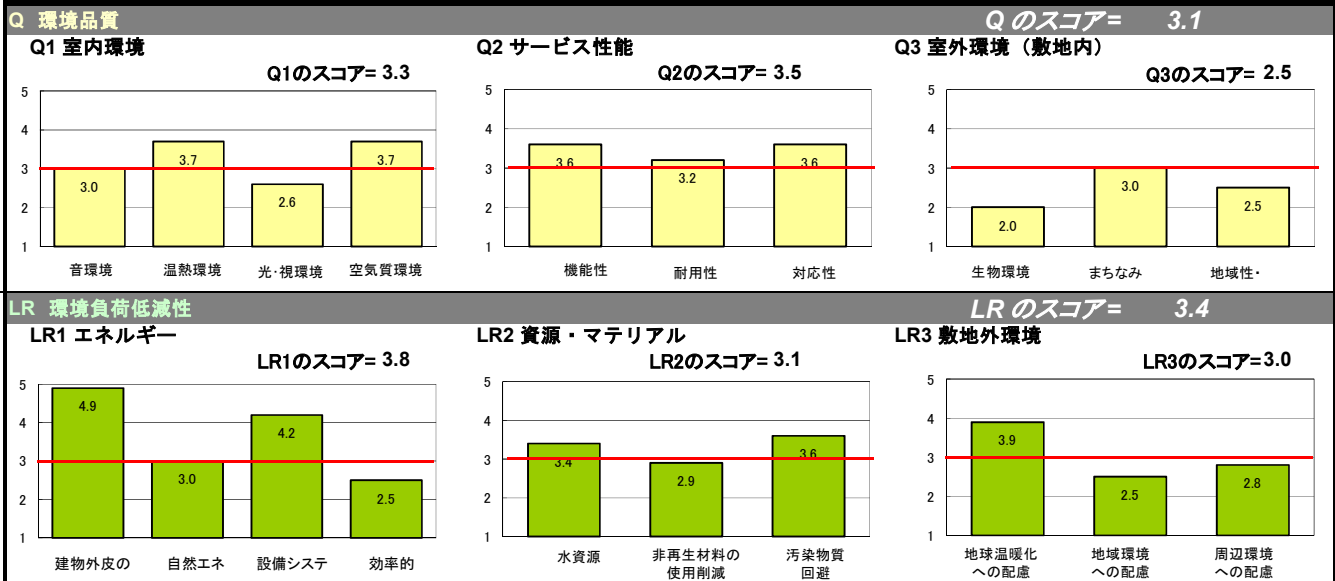
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-川崎2023(v.4.0)

日本ゼオン株式会社川崎地区合同棟等建設工事

24032

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.3
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	地域社会も含めた水課題への取り組みを行っている 環境配慮や自然の潤いを感じさせるよう、平面・立面的な植栽を施した 室外機など高い位置への設置とした	2.1/4.3	2.5
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	空調設備などLRIエネルギーを向上するための措置を講じた	0.3/0.8	2.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.9
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 屋光利用設備 3.2 3.2.1 屋光制御	Low-eガラス採用など、外皮性能向上に十分な配慮を講じた ブラインドなどを採用した	0.5/0.7	3.3
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	敷地内及び建物に積極的に緑化を行い、日陰の形成に努めている 室外機など高い位置への設置とした	0.9/2.3	2.0
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	標準的なBPI以下となっている 標準的なBEI以下となっている	3.9/5.0	3.9
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	節水に配慮した器具を使用している グリーン購入法商品の採用	2.9/4.7	3.1
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	環境配慮や自然の潤いを感じさせるよう、平面・立面的な植栽を施した	0.3/0.8	2.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.6
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	アスファルト防水30年など耐用想定年数の長いものを採用した	0.4/0.5	4.2
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	節水に配慮した器具を使用している グリーン購入法商品の採用	2.4/4.0	3.0
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	施設利用者のための、駐輪場、駐車場のための十分なスペースを確保している	0.3/0.4	3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.6
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	積極的に緑化を行い、自生種の保全を行っている 敷地内及び建物に積極的に緑化を行い、日陰の形成に努めている	0.9/2.3	2.0
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	標準的なBPI以下となっている 標準的なBEI以下となっている	3.9/5.0	3.9
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	環境配慮や自然の潤いを感じさせるよう、平面・立面的な植栽を施した	0.3/0.8	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.8**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	建築基準法に定められている基準を満たしている	0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	複層Low-eガラス採用、ブラインドなど、外皮性能向上に十分な配慮を講じた ゾーン別に冷暖房の選択が自由な空調システムを採用している	3.9/5.0	3.9

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄					全体
	G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										3.1
Q1 室内環境							0.40		-	3.3
1 音環境						3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 室内騒音レベル					—	2.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音					T-2を採用している。	4.2	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能					—	5.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能					—	3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					—	3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					—	3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音					—	3.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境						3.7	0.35	-	-	3.7
2.1 室温制御					—	3.6	0.50	-	-	
1 室温		W			窓の平均熱貫流率2.84W/m ² K、ブラインドの採	3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能					ゾーン別に冷暖房の選択が自由な空調システ	4.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性					ムを採用している	4.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御					夏期50%、冬期40%を実現目標とした設備を	5.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式					採用している	3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境					—	2.6	0.25	-	-	2.6
3.1 昼光利用					—	1.8	0.30	-	-	
1 昼光率					—	1.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口					—	-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		W			—	3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策					—	3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御		W			—	3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度					—	3.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御					—	3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境						3.7	0.25	-	-	3.7
4.1 発生源対策					F☆☆☆☆の採用	4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質					—	4.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気					—	3.0	0.30	-	-	
1 換気量					—	3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能					—	3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮					—	3.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理					中央監視にて監視 CO2制御共	4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視					—	5.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御					—	3.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.5
1 機能性						3.6	0.40	-	-	3.6
1.1 機能性・使いやすさ					—	3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性					—	3.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応					—	3.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画					—	3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性					事務室天井高2.7m	4.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観					トレーニングルームなどリフレッシュスペースが	4.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース					執務室の2.7%	5.0	0.33	-	-	
3 内装計画					—	3.0	0.33	1.0	-	
1.3 維持管理					・トイレ床、ビニールタイル仕上を採用	4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計					・風除室内で自動扉が感知しない距離を1m以	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保					上確保している	4.0	0.50	-	-	
・各室において、維持管理方法が大きく異なる					床材を使用していない	4.0	0.50	-	-	
・タラップ、ステンレス製鏡面仕上げ					・極力段差がない仕上としている	4.0	0.50	-	-	
・壁掛け便器の採用					・SKが確保されている	4.0	0.50	-	-	
・共用廊下にコンセントが確保されている					・適度な照度を確保している	4.0	0.50	-	-	
・システム天井と600口の点検口を採用し、点検					しやすいものとしている	4.0	0.50	-	-	
・各階の同じ位置に機械室・スペースを設け共					用設備器は共用廊下を通じて維持	4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.2	0.30	-	-	3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振					—	3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					—	3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能					—	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					—	4.2	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				R	—	3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔				R	外壁シーリング30年(オートソイクシート)	5.0	0.20	-	-	

		3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		R	ビニル床シート20年	5.0	0.10	-	-	
		4	空調換気ダクトの更新必要間隔		R	—	3.0	0.10	-	-	
		5	空調・給排水配管の更新必要間隔		R	ステンレス鋼管、硬質塩化ビニル管	4.0	0.20	-	-	
		6	主要設備機器の更新必要間隔		R	屋内キュービクル30年	5.0	0.20	-	-	
	2.4	信頼性					2.6	0.20	-	-	
		1	空調・換気設備			耐震処置の適用	5.0	0.20	-	-	
		2	給排水・衛生設備			—	2.0	0.20	-	-	
		3	電気設備			—	3.0	0.20	-	-	
		4	機械・配管支持方法			—	1.0	0.20	-	-	
		5	通信・情報設備			—	2.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性									3.6	0.30	-	-	3.6	
	3.1 空間のゆとり									5.0	0.30	-	-		
	1	階高のゆとり							階高3.9m以上	5.0	0.60	3.0	-		
	2	空間の形状・自由さ							壁長さ比0.1以下	5.0	0.40	3.0	-		
	3.2 荷重のゆとり								-	3.0	0.30	3.0	-		
	3.3 設備の更新性								-	3.2	0.40	-	-		
	1	空調配管の更新性							-	3.0	0.20	-	-		
	2	給排水管の更新性							各階PSを広くしている為、更新が容易	4.0	0.20	-	-		
	3	電気配線の更新性							-	3.0	0.10	-	-		
	4	通信配線の更新性							-	3.0	0.10	-	-		
5	設備機器の更新性							-	3.0	0.20	-	-			
6	バックアップスペースの確保							-	3.0	0.20	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)										-	0.30	-	-	2.5	
1	生物環境の保全と創出				G	W		H	-	2.0	0.30	-	-	2.0	
2	まちなみ・景観への配慮				G				-	3.0	0.40	-	-	3.0	
3	地域性・アメニティへの配慮									2.5	0.30	-	-	2.5	
3.1	地域性への配慮、快適性の向上								-	3.0	0.50	-	-		
3.2	敷地内温熱環境の向上				G	W		H	-	2.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性											-	-	-	3.4	
LR1 エネルギー											-	0.40	-	-	3.8
1	建物外皮の熱負荷抑制					W		H	BPI _m =0.81	4.9	0.20	-	-	4.9	
2	自然エネルギー利用					W		H	-	3.0	0.10	-	-	3.0	
3	設備システムの高効率化					W		H	BEI _m =0.68	4.2	0.50	-	-	4.2	
4	効率的運用									2.5	0.20	-	-	2.5	
	集合住宅以外の評価									2.5	1.00	-	-		
4.1	モニタリング				W		H	-		3.0	0.50	-	-		
4.2	運用管理体制				W		H	-		2.0	0.50	-	-		
	集合住宅の評価									-	-	-	-		
4.1	モニタリング				W		H	-		3.0	-	-	-		
4.2	運用管理体制				W		H	-		3.0	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル											-	0.30	-	-	3.1
1	水資源保護					W		R		3.4	0.20	-	-	3.4	
	1.1 節水								自動水栓一体型洗面器、センサー一体型ストール小便器	4.0	0.40	-	-		
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用									3.0	0.60	-	-		
	1	雨水利用システム導入の有無							-	3.0	0.70	-	-		
	2	雑排水等利用システム導入の有無							-	3.0	0.30	-	-		
2	非再生性資源の使用量削減									2.9	0.60	-	-	2.9	
2.1	材料使用量の削減				W		R	-		3.0	0.10	-	-		
2.2	既存建築躯体等の継続使用				W		R	-		3.0	0.20	-	-		
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用				W		R	-		3.0	0.20	-	-		
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				W		R	ビニル床タイル:グリーン購入法商品		3.0	0.20	-	-		
2.5	持続可能な森林から産出された木材				W		R	-		2.0	0.10	-	-		
2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み				W		R	-		3.0	0.20	-	-		
3	汚染物質含有材料の使用回避									3.6	0.20	-	-	3.6	
3.1	有害物質を含まない材料の使用								内外部鉄部塗料(Hi-CRデラックス)	4.0	0.30	-	-		
3.2	フロン・ハロンの回避								-	3.5	0.70	-	-		
1	消火剤				W				-	-	-	-	-		
2	発泡剤(断熱材等)				W			吹付け硬質ウレタンフォーム		4.0	0.50	-	-		
3	冷媒				W			-		3.0	0.50	-	-		
LR3 敷地外環境											-	0.30	-	-	3.0
1	地球温暖化への配慮					W			ライフサイクルCO2排出率75%	3.9	0.33	-	-	3.9	
2	地域環境への配慮									2.5	0.33	-	-	2.5	
2.1	大気汚染防止								-	3.0	0.25	-	-		
2.2	温熱環境悪化の改善			G	W		H	-		2.0	0.50	-	-		
2.3	地域インフラへの負荷抑制									3.0	0.25	-	-		
1	雨水排水負荷低減					R		-		3.0	0.25	-	-		
2	汚水処理負荷抑制					R		-		3.0	0.25	-	-		
3	交通負荷抑制					R		川崎市駐車付置義務条令協議済		4.0	0.25	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制					R		-		2.0	0.25	-	-		
3	周辺環境への配慮									2.8	0.33	-	-	2.8	
3.1	騒音・振動・悪臭の防止									3.0	0.40	-	-		
1	騒音							-		3.0	0.50	-	-		
2	振動							-		-	-	-	-		
3	悪臭							-		3.0	0.50	-	-		
3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制									3.0	0.40	-	-		
1	風害の抑制							-		3.0	0.70	-	-		
2	砂塵の抑制							-		1.0	-	-	-		
3	日照阻害の抑制							-		3.0	0.30	-	-		
3.3	光害の抑制									2.3	0.20	-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策								-	2.0	0.70	-	-		
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策								-	3.0	0.30	-	-		

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	7.0	-	○	○	-	-	○	○	-	-	-	○	○	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	7.0	-	-	○	○	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	4.0	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	5.0	-	-	-	1.0	1.0	1.0	-	1.0	-	-	1.0	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	-	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0	-	-	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	3.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	2.0	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	2.0	-	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	4.0	-	1.0	-	1.0	-	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	3.0	-	-	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC0.3	窓の日射熱取得率(η)	-
U値(W/m2K)	窓システム 4.0	屋根 2.0
住戸部分システムU値	-	外皮UA値 -
外壁 2.0	床 2.0	
ηAC -	ηAH -	
昼光率 1.8%		
自然換気有効開口率 0.0%		

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	.0㎡ / 人	病床	.0㎡ / 床	シングル	15.0㎡ ツイン	22.0㎡
コンセント容量	30.0 VA/㎡					
天井高	2.7 m					
リフレッシュスペース	2.7%	レストスペース	0.0%			
想定耐用年数	25 年					
想定必要間隔	30 年					
想定必要間隔	20 年					
想定必要間隔	30 年					
階高	5 m					
壁長さ比率	0.9%					
床荷重	- N/m2					

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数	1%	建物緑化指数	16%				
空地率	59%	水平投影面積率	1%	地表面対策面積率	4%	舗装面積率	48%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m	0.81	熱等性能等級	等級2 相当			
自然エネルギー直接利	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	80.0%	採光を満たす住戸数	80.0%	
		通風を満たす教室数	80.0%	通風を満たす住戸数	80.0%	
BPI/BPI _m	非住宅 0.68	住宅 -	太陽光	140.6kW	太陽熱等	.0kW
				蓄電池	.0kW	

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率	0.0%					
特定調達品E	-	エコマーク商品	東リ(ルースレイNW-EX)	自治体指定の特定品目等	-	
使用比率	5.0%					
オゾン層破壊係数(C		地球温暖化係数(GWP)				
オゾン層破壊係数(C	0	地球温暖化係数(GWP)		2		
オゾン層破壊係数(C	0	地球温暖化係数(GWP)		8		

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	64%	棟間隔指標Rw	-				
地表面対策面積率	5.0%	屋根面対策面積率	16.0%	外壁面対策面積率	0.0%		
見付面積S _b	4,197㎡	1 越風向と直交する最大敷地幅W _s	334.58 m	基準高さH _b	19.38 m		
緑地 #####	水面 887㎡	保水性対策面	㎡	高反射対策面	㎡	再帰性反射対策面	㎡